



「損か得か人間のものさし」「うそかまことか仏さんのものさし」という法語が数年前にカレンダーや記念品のカレンダーに掲載されていたことがある。

多くのご門徒さんに「なるほど」と納得いただいたことがあるが、私自身もこの頭が下がる思いをすることが何度もあった。無意識のうちにもこの「人間のものさし」というよりも「自分のものさし」を振り回していたという事に気づかせていただいたことがあったのだ。

その愚かで悲しい自分に気づかせていただいくことになったご縁はさまざまではあったが、そのご縁はまさに仏さんのおはたらきであったからだ、と、重く受け止め直している。

「行徳寺の坊守さんのお話の中でも、「人間のものさし」に関わるお話をいただいたが、行徳寺住職さんからの坊守さんへの言葉は、まさに「仏さんのものさし」に照らし合され出た言葉として受け止められるのだろう。「自分の聴きたらんことを棚に上げて云々…。」

特集

平成二十六年四月十五日(火)

—行徳寺 五箇山 菅沼(菅沼) 瑞泉寺—

参加者二十四名

「妙好人」を訪ねての旅 Ⅱ



展示してあった。

本堂で坊守さんから道宗の信心深さを物語る 道宗打ちのいわれをお聞きすることができ、感動いたしました



TY

北陸と言えば永平寺か吉崎御坊ぐらいしか知らなかったが、今回の旅行で初めて行徳寺・瑞泉寺を知った。

両寺院ともそれぞれ由緒のある寺で、規模の大小はあるものとともに素晴らしい寺院でした。特に行徳寺は雪深い山里の寺と言った風格が感じられ、山門は特に印象に残っています。

KY

行徳寺の遺徳館には土中品としての河合寛治郎の焼き物が、

MN

行徳寺の坊守さんから道宗の生い立ちや逸話を聞き、横臥像を拝し、道宗が身を持って起こした求道問法や、徹底した内省の歩みに触れ感動しました。後生の一大事命あらんかざりはゆだん有るまじき事」と自らの懈怠邪見傲慢の心に鞭を打ち、御仏の御恩を忘れまじとして難行苦行を行なったと言われています。

道宗がこつした猛烈な自己練成をしたのも実に靈性的な直覚の道を進んでいたからだと思われるのです。



瑞泉寺山門 大きさと彫刻が見事

自分を見つめ、自分自身を見出し、深く対話をしていくことが、深い生き方につながるのではと改めて考え直す旅でもありました。

合掌

KM

行徳寺の坊守様からのお話の中で、何度聞いた話でも、初めて聞いたような感動と驚きを持って聞き、我が身わが心に照らして油断するな」という道宗様のお言葉が最も心に残りました。

合掌



(二)五箇山ではイワナの料理が名物とか。身の引き締まったイワナの味はさすがでした。蕎麦漬物も絶品。

天候にも恵まれ、学習会のメンバー以外の人たちとも同じ時間と感動を共有し、心身ともにリフレッシュする一歩ができました。

棟方志功の版画の原画や、道宗さんにまつわる貴重な宝物を拝観することができました。

仏様と共に歩み、仏様に見守られて、生きていくという実感のある生き方「私もこんな言葉が素直に心から湧き出るような、今日という一日を生きて行けたら」と思っています。



棟方志功の六字名号や、その他著名な学者や文化人の書や作品が展示してあります。

入館料は三〇〇円です。

十月初旬 予定

本山奉仕団参加者募集中

参加費 眞加金 一万円と米二キロ
その他バス代金等必要 未定

「妙好人を訪ねて」の旅を終えて

住職

多くのおかげさまを頂きながら、今回の旅行計画を実現することができました。

単なる観光旅行では得られない貴重な心の財産をいただけた旅となりました。

誰かに出逢い、何かと出逢う。その多くの出会いを通して、新たな自分の発見も生まれ出てくるように思えた旅でもありました。

五箇山の豊かな自然に、行徳寺の坊守さん、赤尾道宗さんや、棟方志功さんの遺作品、そして時を超えて私たちに問い続けている眞実の言葉に、その一瞬の縁が、私たちの人生に大きく関わる縁となることが願われるようにです。ありがとうございました。

山崎



月命日にふと目にした色紙大の切り絵。「これは」とお尋ねする、果は私の趣味で」と。普段は光受寺の行事にも積極的「ご参加いただき、とても快活な奥様。なるほど、ごんないにも興味を持たれて挑戦されているんだな」と納得。

今までにも多くの方の趣味をご紹介させていただきましたが、今回は切り絵の御趣味をお持ちの水野さんをご紹介します。

切り絵

F M

トアシサイが咲いています。



せい

お立ち寄りのたび。

品種もたくさんあります。



「良かつたら」と、奥からたくさん作品を持ってきて見せてくださいました。中でも珍しかったのは伊勢型紙を使った帆船の切り絵、鉛筆のような特別なカラーで切っていくのだそつだが、しっかりと紙だけになかなか手問のからり感を感じがした。切り抜く絵はさまざまで工夫とアイデアで切り絵の幅は広がっています。



赤富士の作品は色合も美しく雪の切り抜きはぜひごん手問がかかるところなご、思われました。帰りは良かつたらと、弥勒菩薩の切り絵をいただくことができました。

思わぬ趣味の発見はその人の「入となり」が窺えて、楽しいものだと思います。